

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	4372601098
法人名	有限会社 ヒューマン・ケア
事業所名	グループホーム ヒューマンケア
訪問調査日	平成 21 年 3 月 17 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 25 日
評価機関名	特定非営利活動法人 NPO くまもと

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2009年3月25日

【評価実施概要】

事業所番号	4372601098
法人名	有限会社 ヒューマン・ケア
事業所名	グループホーム ヒューマンケア
所在地	熊本県合志市幾久富1909-700 (電話) 096-247-0087

評価機関名	特定非活動法人NPOくまもと		
所在地	熊本市上通町3番15		
訪問調査日	平成21年3月17日	評価確定日	平成21年3月25日

【情報提供票より】(21年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤 9 人, 非常勤 13 人, 常勤換算 7.7 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	52,500 円	その他の経費(月額)	水光熱費500円/日	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	200 円	昼食	200 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	16 名	男性	3 名	女性	13 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.6 歳	最低	73 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みねとまクリニック、菊池病院、光の森脳神経外科、たに耳鼻咽喉科、長野歯科医院、むさし眼科、平井皮膚科、なかがわ整形外科
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

季節の花木をはじめ中庭にはボランティアによって植えられた花々が咲いており、住宅地の中の訪問しやすい家の一つとなっている。地域との交流には特に力を入れており、定期的な行事の開催がされており、そのための来訪者も多い。また、2つのユニット間は適度に独立しながらも、連携や職員のチームワークは良好である。ユニット内での情報の共有や、研修体制も整備されているため、職員のモチベーションも高い。単独のホームながら協力医との連携体制も構築されており、家族や入居者の安心した生活環境が整えられている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	新人職員が安心してケアに当たるための研修を計画的に実施したことで、職員の意識の統一やケアの質の向上につながった。また、身体拘束についても徹底させるための勉強会でマニュアルを作成することができている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニット毎で職員が自己評価に取り組み、管理者を中心に完成させている。顕在化した課題についても検討し、改善に向けた取り組みを図っている。外部評価結果後には職員会議や推進会議にて更に検討する計画である。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	多様なメンバーで構成された運営推進会議では、ホームの状況報告や外部評価結果報告等が行われている。写真上映会ではホームの日常や入居者の様子が紹介され好評のようである。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時やケアプランの説明時・家族参加の行事等を要望や意見を聞く機会として捉えているものの、意見等が出ないのが実情のようである。推進会議への参加や行事後などに、家族の意見が抽出できるような取り組みが期待される。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日常的に地域のボランティアの来訪が多く、入居者の楽しみともなっているようである。近隣の保育園・小学校・中学校との交流も盛んで、運動会などへも出かけている。建物内にある交流室は地域の会合の場としても提供され、交流しやすい環境となっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着サービスとして理念の見直しを行い、それを基に介護目標も掲げて玄関や相談室などに掲示している。家族や訪問者にも説明している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者からは会議で理念についての話がある。また事例を通して実際のケアを振り返りながら、地域の中での継続した生活支援について話し合いをしている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	定期的なボランティアの来訪や近隣の学校との交流が行われており、住民も気軽に立ち寄れる関係づくりが確立されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員が実施し、管理者を中心に全員で検討して完成させた。顕在化した課題については全員で認識し、改善策もすでに話し合われている。外部評価結果後はさらに全員で討議し、運営推進会議に報告して改善に向けた取り組みを予定している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議のメンバーは行政・自治会長・民生委員・連携医・ボランティア代表・家族代表・ホーム職員で構成されている。ホームの状況報告・外部評価結果報告・広報誌の配布などを行ない、年1回は写真上映会を開催してホームの様子を伝えている。		

グループホーム ヒューマンケア

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政窓口での直接相談や電話での情報交換で、行政との連携体制がとりやすくなっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時やケアプラン説明時に入居者のホームでの暮らしぶりや健康状態について報告している。金銭管理についても、毎月領収書を添えて家族へ送付している。職員の異動は、面会時や広報誌に掲載することで紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族参加の行事の際に要望や意見を聞けるように働きかけている。	○	家族も参加できる行事などの際、活発な意見交換が期待できるような工夫が望まれます。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者の馴染みの関係に配慮し、ユニット間の異動は最小限に留めている。また、経営者も同席した会議で協議し、職員や入居者の個性に配慮した適切な配置を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や専門化研修及び他のグループホームとの交換研修を全職員が参加出来るように計画し、報告書や報告会にて共有している。また、毎月の各ユニット勉強会や合同での勉強会も開催し、職員のスキルアップへのモチベーション向上を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏内の連絡協議会研修に積極的に参加し交流を図っている。特に「交換研修」は職員にとって刺激になり、十分な効果をあげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に入居者本人と家族とに見学に来てもらい、ホーム生活を体験して安心・納得して入居に至るように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で出来るだけ入居者と共に家事をするように心がけている。一緒に行う際には学ぶことも多く、感謝の気持ちを伝え相互に支え合う関係が構築出来るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員が日頃の関わりの中で、思いや要望を把握している。困難な方には家族からの情報などを基に検討している。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の生活歴や家族の意向を基に関係者の意見を含め、担当職員と計画作成担当者が中心となり暫定実施している。出来た計画は、本人・家族・職員にそれぞれ説明している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的カンファレンスや事例検討会を行い、課題に対して検討を重ねている。状況変化時にはその都度見直しをすることになっている。計画に反映できるような記録の整備への取り組みを検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者本人や家族の状況または要望に応じて、通院介助や外出など柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を尊重し、家族による通院介助を基本としている。受診後は情報を共有するようにしている。急変時も考慮し、ホームの協力医療機関での定期往診の利用を働きかけてもいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化における対応の指針は家族に説明しており、状況に応じて関係者で検討し、一人ひとりに対応した終末期について考えていくようにしている。	○	看取りに関する職員間の意志統一や基本的な技術の習得など、研修の実施が望まれます。
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者のプライバシーに配慮した言葉かけや対応を心がけている。常に傾聴の姿勢で本人を否定しないよう、また記録に関しても個人情報の保護に努め、職員研修も実施している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事・入浴など、入居者のペースや希望に応じた支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各ユニット毎に入居者と相談しながら季節の物や好物などを取り入れた献立を作成している。調理も出来る入居者と下ごしらえ・配膳・下膳等共に行っている。職員も同じ食事を摂り楽しい時間を過ごすようにしている。場所を変え、中庭や近くの公園で食事を楽しむこともある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望の時間や回数に対応した入浴支援を行っている。拒否の方には時間をおいて声かけをしたり、馴染みの職員による誘導など工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者情報から楽しみ事や役割などの場面を職員が提供出来るよう配慮している。一般的な家事をはじめ、学習療法・定期的に訪問される歌や踊りなどのボランティアなども楽しみにされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節や天候を勘案しながら、散歩やドライブの他、中庭での日光浴を支援している。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の玄関には鍵をかけず、常に所在確認をしながら見守りを行っている。不穏時の外出傾向には付き添うようにし、身体拘束についても遵守している。マニュアルは作成されており、今後活用していくことにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	入居者も参加する年に2回の避難訓練や通報訓練は、昼・夜想定で実施している。また、消防署指導による救急蘇生法や処置を学ぶ機会も設けている。	○	運営推進会議などに諮って災害時の協力依頼ができるよう、更なる連携構築に努められることが期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	こまめな水分摂取が出来るように配慮している。入居者の嚥下能力に応じ食事の形態や量を調整し、栄養摂取に努めた支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭に季節の花木が植えてあるため、季節が感じられやすい。建物内部にも季節感や家庭的な雰囲気的大事にされた装飾が施されており、交流のある保育園児の作品や写真も飾られている。くつろげる場所の確保もされており、快適な清潔感のある暮らしを支援している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族や本人と相談して馴染みの物を持ち込んでもらうように提案し、一人ひとりの個性的な居室作りを支援している。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	有限会社 ヒューマン・ケア
(ユニット名)	すずらん
所在地 (県・市町村名)	熊本県合志市幾久富1909-700
記入者名 (管理者)	作田弘美
記入日	平成 21 年 2 月 6 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	地域との方々とのふれあいを大事にしたいということで、日々のケアも行っているが、スタッフ全員が理念を十分に理解するまでには至っていないので、もう少し、努力する必要がある
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	理念の理解が充分でないため、日々の実践に向けての取り組みがまだ不十分であるように思う
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	まだ、不十分であると思われる。今後、もっと、地域の方を中心に理解して頂けるよう取り組んでいきたい
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議時に、地域の高齢者の方々の状況など、情報提供して頂いたり、普段来られる、地域のボランティアの方や、ご家族などからのご相談などに対応している。	○	地域貢献がもっと出来る様、今後も、私たちの認知症ケアが、地域の方々のお役に立てるよう取り組みたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を受け、指摘やアドバイスがあった事項については、まず、経営者と管理者間で、討議を行い、スタッフにも、会議を通して、考える機会とし、また、運営推進会議において、報告し、意見を頂くようにしており、改善について、全スタッフ前向きに取り組むようにしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施している。運営推進会議において、ホームの取り組みを報告したり、広報誌を配布し、日頃の入居者様の様子をお伝えしたり、年に一度は、写真上映会を行って、よりわかりやすい、入居者様の表情なども伝えられるようにと取り組んでいる。また、外部評価の結果を報告し、ご意見も頂いている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議を通し、存在がとても近づいた感じがする。そのため、窓口での、相談ごとなども、とてもやりやすくなったし、市の考えを聴く機会も、以前に比べ増えたように思う		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に何度か参加し、学んでいっているところだが、実際に活用したことはなく、難しいという印象がある。繰り返し学ぶ事により、必要時に、活用出来る様にしておきたいと考える。	○	今後も、昨年に引き続き、ホーム全職員が理解し、活用出来る様に、勉強会を設けたり、研修会がある時は、出来るだけ、参加させる様に取り組んでいきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフの中には、つい、口調が強くなる時もある為、対応のあり方などに対して、事例を通して振り返りを行う機会を作り、エスカレートしないように、皆で考えていったり、スタッフ間の関係を借り、ストレスを溜め込まないよう支えになってもらったり、スタッフと出来るだけ話をするようにしている	○	スタッフの入れ替わりもあるので、引き続き、定期的に学習会を行い、今の自分のケアのあり方の振り返りが出来る様取り組み、スタッフのストレスマネジメントが出来る様学んでいきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や、解約時等、出来るだけ、十分な時間をとり、納得のいく説明をする様心掛けており、また、その都度、不安に思われる事などある時は、話しをするようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満というより、要望と言われる事があるので、出来るだけ、要望に応えられるよう、配慮している。	○ 何でも言える雰囲気作り、関係作りにも努めていきたいと考える
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者様の急変時や、事故などの時は、その都度報告している。また、事故などについては、その後の経過報告もしている。健康状態、精神状態も併せ、報告及び相談など行っている。金銭管理については、金銭出納帳をつけ、領収証と併せ、毎月報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置したり、運営推進会議や、家族会の時などに、意見を聴く機会としたいと思っているが、中々、遠慮されている為か、意見が出てこない。ご家族の態度や表情、言葉などから、想いを推察したり、ご家族の立場に立って、考えられるよう努めている	○ ご家族も言えない事が多いと思うので、少しずつ、言える雰囲気作り、関係作りにも努めていきたいと考えるまた、苦情処理に関するマニュアルを作成したので、今後、スタッフ皆で読みあわせを行い、きちんとした対応が出来る様にしていきたい
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者は、月に1回行う方針会に於いて、意見交換は出来ているが個人個人との面談はあまり行っていない。管理者は、運営者の代行として、細部の話し合いを行っており、重要な事は、適宜運営者に報告、打合せを行っている。	○ 運営者とも定期的に面談し、ゆっくと意見を聴く機会を設けたい。今後、実行予定。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者様の状況などで、必要な時間に、人員を確保出来る様、早出の時間帯や、遅出の時間帯等の見直しをし、勤務調整を図っている。利用者様の急変や、急なスタッフの病欠者発生などの状況に合わせ、超過勤務命令などで対応している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は管理者と協議し、職員や利用者の個性を見ながら、職員配置を行っているが、基本的には利用者の馴染みに配慮して、職員の異動は最小限に留めている	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>専門化研修や外部研修及び他のグループホーム等への定期的な研修を受講するように、計画を立て実施している。又、資格取得の為にモチベーション作りを検討している。(一部では、資格手当を実施している)</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>ブロック内での連絡協議会研修に積極的に参加して交流を持ち、いろいろな勉強をしてきている。また、「交換研修」としてお互いの事業所からスタッフを実習として出し、各事業所を現場で勉強しあうシステムをとっている。何よりも勉強になる研修という意見が出ている</p>	<p>○</p> <p>ブロック外での研修ももっと出来る様に取り組んでいきたい</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員配置を基準より多くし、業務が過重にならない様に配慮している</p>	<p>○</p> <p>運営者による面談を計画していきたい</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は、管理者が仕事をしやすい様に(職員指導も含めて)、過度に前面に出ることなく、管理者を中心にした運営を目指している</p>	
<p>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>			
<p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>スタッフは、利用者様の不安に向き合っていると思う。不安で落ち着きのない利用者様の側に寄り添い、話を傾聴する。又、カンファレンスや、日常的にスタッフ間のミーティングの中でも、その不安を考え、ケアについて考えている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>出来るだけ、十分な時間をとり、ご家族の話を聴くように努めている。ご家族の抱えられている不安など、少しでも軽減出来る様、ご家族の立場に立って考えるようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、必ずしも当ホームで受け入れられるとは限らない為、他の事業所さんを紹介したりしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人様が安心して、納得した上で利用開始するというシステムまでには、中々、至っていない。面談を兼ねて、一度ホームに遊びに来ていただいたり(他入居者様とお茶等を頂く等)、体験入居を試みた程度しか実際は、出来ていない	○	入居前に、ホームに馴染み、他の入居者やスタッフにも馴染まれるよう、十分な準備が出来れば良いとは思いますが、中々難しい状況である。今後も継続して努力していきたいと考える
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除や食事作り、洗濯たたみなど、利用者様と一緒にしている。手伝ってもらう事に対して、感謝の気持ちを伝える。昔ならではの漬物作りや味噌作り、餅つきなどの時には、利用者様から学ぶ事も多いため、その事をお伝えすると、喜ばれる。利用者様からも、ケアに対する感謝の気持ちを伝えられる。そういう支えあいの関係が出来てきていると思う。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の様子をきちんとお伝えし、ホームのみで解決するのではなく、相談しながら取り組んでいく中で、共に、悩み、喜びを分かち合っていると思う。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族への連絡を、密に行い、家族の思いを受け止めると同時に、ご本人の伝わりづらい思いや、感謝の気持ちなど代弁して伝えていく。その上での関わりを作っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所(墓参りや家の周辺やご近所など)に外出の機会を設けたり、友人の訪問があったり、電話があったり、出来るだけ、関係が途切れないよう、又来て頂けるよう、お話ししたりはしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様同士支えあい、協力し合っている良い関係が築けている方もいれば、波長が合わない方もいる。トラブル時の自己解決力を把握し、仲裁のタイミングをみて、調子の悪い方の方の手助けを行い、スタッフがあまり先回りしすぎない様、注意する。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後の様子を家族に尋ね、会いに行ったり、ご家族へも、ホームに来訪しやすいよう、訪問して頂けるようお誘いはしている。	○	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分の思いを言葉に出せる人は、ご本人とお話をしているが、思いを表現できない方は、ミーティングを利用し、家族からの情報などを基に、ニーズは何なのか検討するようにしている	○	真のニーズの導きだし方に自信がない場合がある。学びを深めていきたい
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	紹介先からの情報提供書や、ご家族からの情報を基に、整理し、把握に努めるようにしている	○	まだ、不十分だと思う
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	経過記録、申し送りや、バイタルの変化などを把握した上で、ご本人の状態、状況を観察していく。ここ最近の様子の変化などは、必ず申し送りし、カンファレンスしながら、スタッフの注意を高めるようにする		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的カンファレンスや、事例検討会を行い、課題に対して検討を重ねている。ご家族にも相談しながら、話し合いを行っているが、十分に話し合いが出来る家族の方もいれば、不十分な家族もおられる	○	家族の中には、忙しくされている方もいて、話し合いの時間が不十分な方もいる。今後、もっと家族の協力を得ていきたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	設定期間だけではなく、状況変化時も、その都度見直しをしている。	○	見直す時期が少し遅くなる場合もあるので、タイムリーに対応していきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に、細かく記録する事で情報を多く得ることが出来る為、SOAP式記載をしている。又、情報の共有という事では、記録だけではなく、重要な事に関しては、申し送りノートの活用、口頭での申し送りをし、情報の共有に努めて、実践、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や、ご家族の状況、要望に合わせて、夜の電話や面会、週末外泊や、ご家族との外出・買い物・外食などとり行えるよう支援している。又、交流室を利用しボランティア(地域)の方々との交流が行えるようにしている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。消防の方には、年1～2回来て頂いて、防火訓練、救急蘇生法の講義・実施指導など行っていただいている。その他、相談にものって頂いている。園児・児童との交流も盛んで、三つの木の家(研修施設)の研修にも、ホームとの交流が盛り込まれている。又、ボランティアさんや民生委員さんや、自治会長さんの協力も得られている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご家族と話し合い、必要あれば、他の事業者と話し合い、説明に来ていただいたり、相談にのっていただいたりもしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの方にも、相談にのって貰ったり、協力頂いている。	○	必要時、連絡をとっていきよう心掛ける
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則、通院介助は、ご家族で行っていただいている。しかし、認知症専門医の受診を受け、検査終了後、説明を医師よりされる時や、状態の変化などでの御相談時は、ホームの管理者も立ち会うようにしている。出来るだけ、必要なかかりつけ医は、継続していただくが、急変時の対応なども考え、ホームの協力医療機関での定期往診は受けていただくよう、働きかけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	まだ、家族の思いと、ホームの受け入れ体制に差があると思う。今後の課題である
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	実際、看取りを行った事はないが、状況が揃えば、看取りが出来ないわけではないということで、スタッフ教育は今後も行っていかなければならないと考える
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に傾聴の姿勢を持ち、理解できない内容の話しでも否定せずじっくりと聴くようにしている。一人一人のプライバシーを尊重する姿勢はとれている。記録などに関しては、事務室で管理しており、個人情報の保護に努めている。又、スタッフ教育も行い、書面にて、誓約書を取っている。個人情報の記録物の処分は、全て、シュレッターにかけている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	きちん向き合いながら話を聴く時間を出来るだけとるように留意し、対応をしている。その方の能力にあわせ、聴き方も、本人が選べるよう、選択肢を作る様にしている。	○ まだ、不十分である為、スタッフ同士、学びあいながら、ケアのあり方を考えるようにする
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の生活のペースを乱さないように本人の意向を聴きながら声かけしている。そのため、食事時間や入浴時間などは、個人差がある。又、ご本人の希望にあわせ、お手伝いや花の手入れや水やりなどして頂いている。しかしながら、業務優先にならざるを得ない状況もあり、全てにおいて全ての人のペースが守られているかといえば出来ていない部分	○ 今後も、利用者様お一人お一人の思いを理解し、出来るだけその人らしい暮らしに近づける様、努力を続けていきたい
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人が好むおしゃれを確認し、化粧、エステ、顔そり、マニキュアなど喜ばれるよう支援している。希望に応じて理美容院への外出や訪問美容が利用出来る様な体制もとっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様個人の好物をメニューに取り入れたり、個人の能力に応じたお手伝い、調理・配膳・皮むきなどを行ってもらっている。茶碗類の後片付けは、出来るだけ、自分のものをして頂くようにしている。時には、手作りお弁当を作り、近くの公園に行き、食べたりと楽しみ気分を味わって頂くよう支援している。又、だご汁会などを中庭で行う事もある。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒やタバコを吸われる方はいない。それ以外の嗜好については、出来るだけ希望の物を準備出来る様支援している。また、コーヒーが大好きな方がおられるが、別にコーヒータイムを設けている。誕生日や日頃でも好みの物を取り入れるようにし、出来るだけ季節の物を食して頂けるように支援している	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の排泄パターンを把握し、その人に合った誘導や見守り、オムツ使用を心掛けている。歩行能力のある人は、トイレ使用を徹底させている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間や回数など個人の希望を出来るだけ取り入れているが、殆どの方が、介助と見守りが必要な為、夜間の入浴は出来にくい現状である。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の睡眠パターンが違ふ為、まず把握をしてその中で安眠出来る様にしていく。不眠にならないように適度な運動、散歩も実行している。運動の後や食後、外出後などまずお茶を飲んでリラックスしてもらって、午睡を促したりしている。居室での午睡を嫌がられる方もいるので、茶の間で横になってもらったり、ソファでくつろいでもらったりと、休養していただいたりもしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の生活歴を把握し、それ以外でも本人との会話で情報を引き出したり、過去の経験を活かせるように留意している。毎月のボランティアさんによる、歌の会やお話の会や日舞の会、又、そのほか、誕生会、ドライブ、体操レク、フラダンス、各種コンサート、コーラス、園児や児童の訪問、花の手入れなど楽しみにされている。又、学習療法も、生活の張り、楽しみごとの一つになっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、ご自分でお金を管理されている方はいない。ただ、お財布に少額のお金を手元に持たれている方はおられる。お金を使える支援は行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	現在は、寒くなって外出の機会が少なくなっているが、公園への散歩や、買い物、ドライブ、花見、紅葉狩り、など行っている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	泊りがけでのお出かけはまだ実現できていないが、お弁当を作りドライブに出掛けたり、阿蘇方面など遠出し季節を感じて頂いたり、旅行気分を味わっていただけるよう、支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望時は、電話をスタッフがかけて差し上げている。あまりにも、電話要求の強い方に対しては、ご家族と相談しながら、電話の回数を調整したり、場面の切り替えなどケアについて検討していく。手紙についても、代筆が必要ならば、代筆の支援も行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問は可能で、リビングや居室と、お好きな所で、ゆっくりと過ごして頂いている。宿泊の希望があれば、宿泊して頂き、食事と一緒に同じ物を食べて頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束は極力しない姿勢でケアを実行している。マニュアル作成し、スタッフの認識を高めていきたいと考える	○	身体拘束はしていないという決めつけてきな考えから、あまり、勉強会なども行っていなかった。しかしながら、色んな拘束があるので、振り返りも必要である。学習会も取り組んでいこうと考える。今回、マニュアル作成もしているので、活用していきたい
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	原則として、日中の施錠はしていない。外出がすぐに分かるように中庭を見渡し、所在の確認を行いながら日々のケアを行っている。又、外出傾向が強い不穏時には付き添うことを努力しており、家族への相談も行っている。しかしながら、どうしても対応困難となる場合は、その時間帯だけ、玄関施錠することがある	○	施錠する以外にどうにも対応できない時があり、限られたスタッフ数で、どう対応すべきだったのか、日々悩むところである。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ほぼ、利用者様の所在は把握している。スタッフが位置するところは、充分に見渡せるような場所で、席をはずす時は声をかけるようにしている。しかしながら、24時間100%見守りが出来るわけではなく、何度か、スタッフが気付かない間に入居者様が外に出られていた事がある。	○	安全面の確保ということで、日々考え努力を続けていくしかないと思う
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者様それぞれにとって、危険度の高いものについては、お預りしたり調整を行っている。異食の可能性の高い方の場合は、口にして危険な物は、居室内や手の届く所には置かない様になっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりはっと・事故報告書を記載する事で、振り返りを行い、早目の対策を考え、再発防止に取り組んでいる。又、緊急時マニュアル・緊急連絡網・各利用者様の病歴ファイルを設置し、緊急時にスムーズな対応が出来る様にしている。又、火災に関しては、防火管理者を決め、年2回の防火訓練も実施し、日當点検の意識も高めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に1回、消防署より、署員の方に来て頂き、救急蘇生法や、応急手当などの研修を受け学習している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、避難・通報訓練を行っている。(日勤帯設定・夜間設定) 運営推進会議などを通して、地域の方々への協力要請を行っている。又、ホーム前のアパートの方々には、行事などへのご案内を行うなどして関係作りに努めている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒の可能性が高い方や、離設の可能性の高い方、考えられるリスクについて、説明を行っている。しかし、リスクと自由は背中合わせであり、自由な暮らしを優先させる時、ある程度のリスクはつきものである。ホームの方針として、その方の自由、生き生きとした生活を考えていきたいと考えている。このことは、入居時に話し合うようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の経過記録の中に小さな変化も記録し、身体状態の変化や異常の早期発見に努め、異常時は、早目の受診(往診)をする様、対応に心掛けている。また、健康状態に関する記録を、観察ケアチェック表に記載している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用、副作用、用法、用量については、薬局より説明書を必ず貰っている。又、不明な点などに対しては、薬剤師の先生より直接、説明を受けるようにしている。又、服薬チェック表を用い、配薬準備時の、ダブルチェックを行う様にしている。又、処方内容変更時は、スタッフ全員にいきわたる様、必ず記録に残すようにしている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維の多い食材の使用、牛乳やヨーグルトの飲用、水分摂取に留意し、毎日の運動を取り入れている。又、必要時、腹部マッサージを行ったり、また、便秘がひどい方は、個別的に、毎日、プルーンやヤクルトを摂取されている。又、月1回は、主治医による診察を受け、腸の動き具合をチェックして頂いている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者様一人一人に合わせた口腔ケアの支援(声かけ・見守り・介助)を、毎食後に行っている。又、義歯は、週1回は義歯洗浄剤による消毒を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合った、量等を把握し、盛り付け時、量の調整、盛り付け方の工夫、形態の配慮(キザミなど)、又、水分がとりにくい方へは、出来るだけ食事や他の食物から水分が入るよう工夫している。また、調理師による栄養評価も実行している		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎日の業務の中に、消毒、換気、手洗いなどを実行し、冬季は各居室での加湿器使用をしている。又、全スタッフ、利用者様のインフルエンザ予防接種を実施している。又、手洗い・うがい・マスク着用などの励行に努めている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜間に、ハイターなどで、除菌する。調理器具は、食器乾燥機による乾燥を行う。食材の保存方法にも気を配り、食中毒の発生しやすい時期には、出来るだけ、調理法方も十分に加熱するように心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	外門は開放し、出入りしやすいように心掛けている。施設としての圧迫感がないように、木や花を多く植え安心と温かみのある雰囲気を作り出せるように環境を整えている。花は、地域のボランティアさんの協力により、季節ごとに植え替えをして、季節の移り変わりを共に喜べるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関からリビング、共有の場まで出来るだけ家庭的な雰囲気が味わえるように装飾品には、気を使い、季節の花や絵を飾るなど無機質な感じがないように心掛けている。陽射しの加減については、利用者様に尋ねながら、調整している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大体、所定の場所がいつの間にか決まっているが、その時の気分で別の場所でもくつろげるよう利用者様一人一人が、好きな場所にいられる様に、いくつかに分けて椅子を置いたり、位置を十分に検討し、問題があればすぐに対応している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談しながら、思い出の物、馴染みの物を持って来ていただくようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気清浄機の利用、又、午前・午後と換気を行い、温度計、湿度計を用いて毎日チェックしている。冬は空気も乾燥しているので、加湿器を利用している。特に梅雨の時期は、除湿機の利用も行っている。換気扇やエアコンのフィルターの掃除をこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、ほとんどが、バリアフリーになっている。また、歩行が不安定な方にも、手すりを廊下につけてある事で、安定した歩行が出来る様に工夫されている。ドアもほとんど引き戸にし、ご自分での開閉がしやすくなるようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	リビングから見える中庭には、季節感が味わえるように、季節の花々を植えるようにしている。又、リビング内にも、季節の花などを飾り、飾りつけも、その季節を味わえる物にして、会話に盛り込んでいく。中庭で、自由に花の手入れをされる利用者様を見守る。食事の準備も、その方の能力にあった準備(切る・洗う・盛るなど)を一緒に行う。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭には、いつでも自由に行けるようになっており、季節の花々が植えてあり、ベンチも置いてあるので、中庭でゆっくり楽しんで頂けるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

周囲の環境が良好で、隣には、明るい広々とした公園があります。施設内も利用者様が安心して心安らげるような環境を整えています。コの字型の建物の真ん中には、中庭があり、季節の花や木々が植えられています。この花の植え替えは、地域のボランティアさんの協力です。又、日頃の手入れも利用者様と一緒にして頂いています。近くの南ヶ丘小学校の緑化委員の児童の皆さんは、学校でプランターに種を蒔き花が咲いたところで、利用者様との交流も兼ねてホームに届けて下さいます。又、園児や学童児、ボランティアの方々が自然と集えるように交流室を設け、広い範囲で交流が出来る様になっています。現在は、定期的な交流が実行できており、ボランティアさんの数も増えていっています。入居者様も、来訪者の訪問を楽しみにされ、お茶をお出しされたりとおもてなしもされます。更に、各種のコンサートや専門分野での勉強会の場としても施設を有効に活用しています。多くの交流を通して、色々な事を学び、自分たちも地域に貢献できるように、日々努力しています。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ヒューマンケア
(ユニット名)	花みずき
所在地 (県・市町村名)	熊本県合志市幾久富1909-700
記入者名 (管理者)	藤田 節子
記入日	平成 21 年 2 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	定期勉強会やカンファレンス時など、スタッフが多く集まるときに、唱和していくようにする。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	一度きりではなく、年度始めは必ず理念を入れ込んだ広報誌を作成していくようにする。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	受ける形での取り組みは以前から出来ているが、ホームの方から出向き活動することが出来ていないので、今後要望があれば積極的に行動していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p> <p>行政関係や地域の高齢者部会、民生委員などからの見学や研修依頼があれば積極的に受け入れ、常に役に立てるように心がけている。</p>	○	<p>スタッフ間でも話し合う機会を設け、ホームのほうから働きかけることが出来る内容を検討していくようにする。認知症サポーター研修に参加していく予定。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p> <p>外部評価の件で話し合う機会は会議を通して多く持っており、自己評価も毎年スタッフ全員で行い、統一した意識を持つように努力している。評価の結果に対しても、全体で認識し改善策を考えていくようにしている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> <p>会議は2ヶ月に1回行い、ホームの状況は詳しく報告している。また、1年間のまとめとして、毎年入居者様の生活状況をまとめあげた写真上映会を行っている。外部評価の結果も会議にて報告し対応内容を話し合う機会を作っている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> <p>運営推進会議に参加してもらい話し合う機会を作っているが、その他相談があればその都度窓口へ行ったり、電話での連絡をとり、アドバイスを受けている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p> <p>管理者は学ぶ機会を持っているが、スタッフは難しい内容であるためまだ持っていない。ただ、家族からの相談があれば、管理者がきちんと対応できるようにしている。</p>	○	<p>難しい内容ではあるが、今後認知症の方には必要となってくる分野なので、スタッフと共に勉強する機会を作っていく。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p> <p>定期勉強会にて関連法を学び、身体拘束に関しても同時に勉強会を行いマニュアル作成まで行うことができた。日々のケアの中でも十分注意していくようにリスクマネジメント係りが検討している。</p>	○	<p>マニュアルに関してさらに勉強会を行い、スタッフ間の意識統一を図りたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	定期的な個人面談を行い、ゆっくりと意見や不満などを聞く機会を設けていく予定である。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>専門化研修や外部研修、及び他のグループホーム等へ定期的に研修を受講するように計画を立て実施している。また、資格取得のためのモチベーション作りを検討している。 (一部では資格手当てを実施している)</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>ブロック内での連絡協議会研修に積極的に参加して交流を持ち、いろいろな勉強をしてきている。また、「交換研修」としてお互いの事業所からスタッフを実習として出し、各事業所を現場で勉強しあうシステムをとっている。何よりも勉強になる研修という意見が出ている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員配置を基準より多くし、業務が過重にならないように配慮している。また、十分な休養ができるように個人の有給は確実にとれるように勤務に取り入れている。</p>	<p>○ 前述の16番と同様常にストレス軽減を考え、今後個人面談などを考えていきたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>管理者が仕事をしやすいように(職員指導も含めて)過度に前面に出ることなく、管理者を中心とした運営を目指している。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居申し込みがあった時点から困っている事は十分聞くようにしている。入居前には慣れていただくために2～3回お客様として来ていただくようにし、その中で不安な様子などないか観察している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居申し込みがあった時から十分話す時間をとっている。入居者や家族が抱えている問題を、できるだけ早期に把握したいと考えている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	○	家事などでは入居者ができる事、してもいいと思っている事を職員が済ませてしまうことが多いと思う。たとえうまくいなくても入居者がしてくださることを嬉しく思いたいし、それができるような余裕をスタッフが持っていきたい。
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>		
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p> <p>ハガキを出したり、入院先や施設入所先などには訪ねて行ったりしている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p> <p>入居者一人一人に受け持ちのスタッフを付けておりゆっくりと話しをしたり、関わりが持てるようにしている。本人の意向をできるだけ聞きだせるように努力している。</p>		
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p> <p>入居前にケアマネージャーが把握するように心がけているが、生活歴や馴染みの暮らし方など、受け持ちスタッフが少しづつ把握できるように努力している。</p>		
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p> <p>入居者一人一人の過ごし方や心身の状態が違いため、それにあわせたケアを提供できるように十分観察を行い、記録の中からの情報収集も注意を払っている。多くの情報を得るためにも定期カンファレンスを行い、受け持ち制にしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p> <p>スタッフと定期的カンファレンスを行い、その中でケアの方法などを考えていき、受け持ちスタッフによる24時間のプラン作成や修正、評価も実行している。ただ、アセスメントの過程が不十分である。</p>	○	アセスメントの段階を充実させるために、今年は受け持ちによるアセスメント表作成をしていく予定である。(ICF,11項目シート)
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> <p>6ヶ月又は変化があったときにプランを修正、再作成しており、同時に評価とモニタリングも実行している。ケアマネージャーだけではなくスタッフとのカンファレンスを基にし、更に受け持ちスタッフの評価を基本としている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	○	今年、短期利用共同生活介護を始める予定である。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	○	地域包括センターとGHとの接点が現状ではほとんどなく、行政の高齢課だけとの関わりとなっている。どういう部分で協働できるのか双方の統一した認識が必要。
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	安定した生活の中でつい薄れがちな認識であるため、定期的に家族との面談時に意向を確認していくようにする。家族の支援体制が大きく影響することの説明も必要と思われる。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	医師、家族の支援体制ができ、看取りを行うことになった時のスタッフ全員の意思統一、及び看取りケアの勉強会を準備していく必要がある。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入浴やトイレ介助は個別で行い、他者の目が触れないように注意している。個人情報も勉強会を実行し全員が認識できるように取り組み、守秘義務に関しての同意書を取っている。入居者に関しては、イニシャルを使用している。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居者一人一人が全く違うため、個人に合わせた働きかけや説明が重要であると考えている。ケアに関しては、決して無理強いしないように、本人の自己決定を待つように留意している。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者一人一人が全く違い、また、日々や時間でも変動しているため、その時の状況を十分考慮し本人のペースに合わせるように努力している。ただ、重症化する中、全員の希望に添った支援ができる事が徐々に難しくなっている。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>希望にあわせて訪問美容が2ヶ月に1回あり、髪染めなどはスタッフが実行している。また、化粧品やヘアピンなど希望される方には常備し、衣類は本人の希望を重視している。女性が多いためおしゃれには気を使っていきたいと思っている。</p>	
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の献立はスタッフ全員で立て、全量おいしく食べていただけるよう毎日評価している。準備や後片付けでもその都度入居者と一緒に行うよう習慣化しておりとても楽しい時間となっている。</p>	
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>一人一人の好みが大幅に違うことは無い現状だが、入居者全員がむら無く喜んでいただけるように、日々の献立をかたよりがなく、好きな物が満遍なく入るように工夫している。栄養改善係りが常に評価している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者全員の排泄パターンはケアチェック表にて把握し、把握が困難な場合や誘導が必要な場合は、排泄チェック表を利用している。個別に考えながらできるだけ不安のない生活が送れるように努力している。排泄介助時も、さり気なく行いプライバシーの尊重に留意している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者が好まれる時間に入浴できるように、また、その日の心身の状況も加えて順番を決めていくように、入浴担当者がアセスメントしている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者がゆっくりとくつろいでリビングにいられるように環境を整えており、居室で経過されるときも過度に声かえせず見守っている。必要な方には午睡を促し、また、夜間安眠ができるように、一人一人の入眠パターンを把握し個別のケアを行っている。		
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、掃除、洗濯物たたみなど、それぞれができることや得意とすることができるように、ケアの中に取り入れている。また、楽しみを共有する意味でもレクリエーションを行い活気が持てるようにしている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる入居者はほとんどいないが、入居者が希望される限りは小額であろうとも持っていただくようにしている。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節が良いときにはドライブに出かけ景色や花を楽しみ、日々の暮らしの中でも、中庭や公園に出て散歩したり日光浴をしたり、外出の支援をしている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	交流のある保育園、小学校の行事に参加したり、地域のコンサートや行事などにも積極的に参加している。また、計画的にバラ祭り、植木市、初詣も毎年出かけ、個別での外出もしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望があればいつでも電話できるようになっており、家族からの手紙やはがきもよく届いている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族だけではなく、近所の方、友人などの来訪があり、気兼ねなく居室やリビングで過ごしていただけるように注意している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昨年の取り組みで勉強会を行い、スタッフの意識を高め認識を共有できるように努力した。また、年末に事業所としてのマニュアルを作成した。	○	マニュアルを使用してさらに勉強会を行い、意識向上を目指したい。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関や居室は開放しており、自由に出入りできるようにしている。離設を繰り返すなど問題が生じたときはスタッフや家族と話し合うようにしている。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の所在は昼夜を通して把握している。特に夜間は、定期巡視、所在確認を行い、防火関係の点検と同様に注意を払っている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者一人一人にとって危険であるものを検討し、居室や周囲に置かないようにしている。その際できるだけ除去してしまわないように、最低限のものをホームで管理するようにしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	年に2回の消防訓練を継続し、それと同時に救急時対応や処置について消防員の方から指導を受けている。事故に関してはひやり・はっと報告書や事故報告書を活用し事故防止への取り組みをしている。ただ、事故防止の努力ははじめても誤薬や転倒事故が発生しているのが現状。	○	事故に関しては、認識、知識とも薄くならないように、継続的な教育が必要であると考え。リスクマネジメント係を中心として、スタッフの意識を高めていく事が必要である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に2回の消防訓練時、緊急対応や処置を学ぶ機会を設けたり、専用のビデオを見たりとホーム内での勉強も行っている。	○	継続的な教育が必要である。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練を継続させることと、運営推進会議の中で自治会の方と話し合いができるようになってきている。ただ、近隣の方の理解を得、その上で協力体制を作っていく事は、まだ現状では難しいところである。	○	運営推進会議の中での話し合いを継続させ、ホームの方も近隣の消防訓練に参加していくなど、今後の努力が必要である。
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者に関する問題やリスクに関しては、細かい部分から家族へ報告し、家族に意向を聞きながら対応策を決定するようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	スタッフの一人は「リーダー」としての役割を持ち、入居者全員の心身の把握を行い、異常があればすぐに管理者へ報告しており、看護師としての判断なども仰いでいる。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの説明書を常時確認できるようにファイルしており、セット時は確認しながらの操作をしている。しかし、作用や副作用など、難しい分野であるため十分な把握が難しい状況である。	○	繰り返し説明書を見ることで、一つ一つの薬を把握できるようにしていきたい。重要な業務であるというスタッフの自覚も促していく必要がある。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一日を通しての水分摂取促しと牛乳、ヨーグルト、繊維性の高い食品などを献立に取り入れることに注意を払っている。また、体を動かすことが少ないため、レクリエーションで体操を取り入れている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きの声かけと、介助が必要な方への介助を行っている。また、週に1回の訪問歯科診療を利用し、必要な方の治療や口腔ケアを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	○	<p>症状別のマニュアルを作成し、スタッフ全員がすぐに対応できるようにしていく必要がある。</p>
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時から、できるだけ馴染みのある物を持ってきてもらうように説明し、本人も家族も安心されるように持参品や家具・レイアウトは全てまかせている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は一日数回行い、温度や湿度に関しては温湿度計を数箇所に設置し、必ずチェックをしている。自分の感覚だけで判断し、入居者へ不快感を与えないように注意している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーであり、床もソフト素材になっているため安全性は高い。必要な入居者には手すりを使用してもらえるように設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	できるだけ混乱や失敗が無いように、一人一人の援助部分を見極めている。調理手伝いやかたづけ、洗濯物たたみなど自分で出来ることは積極的にしていただくように留意している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭の環境は良好であるが、ベランダがなく、洗濯干し場に出るところに段差があり、アクセスに問題がある。	○	中庭に出ることで十分楽しめているが、その他の敷地へも出られるように、ハード面の検討が必要である。長期的な計画として考えている。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くない
98	職員は、活き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ①地域交流に力を入れており、現在数多くのボランティアが入り定期的な行事を行うことが出来ている。ボランティアによる企画、進行などもあり職員と意識を共有できる部分が多くある。
- ②定期的な会議やカンファレンス、勉強会を行い、スタッフ全体のスキルアップを目指している。
- ③より良い環境を考え、中庭の花や木の植え替えや整備に留意している。